

親鸞さまの

【本文】

濁世の有情をあはれみて

勢至念仏すすめしむ

信心のひとを撰取りして

浄土に歸入せしめけり

【意識】

(前回の和讃と内容的に続いてます)

自らの煩惱で濁らせた世に生きざるを得ない人々を憐れんで、

大勢至菩薩(阿弥陀様の智慧の面を現す)はお念仏を勧められました。

そして、阿弥陀様に信順してお念仏する人を残らず引き受けて、

極楽へ往生できるよう導かれました。

【私の味わい】

先日、いつものようにオンラインで質問を回答をしていた際、次のような方がいました。自分はスピリチュアル関係を深く学んでおり、重大な事実を知ってしまった。これを人に言うべきか悩んでいる、というものでした。にわかにはとても信じられない説でしたし、そもそも仏教とは直接関係のないことを僧侶に尋ねるのが不思議でした。そのため、私とあなたは抛り所が違うのであり、あなたは自分の大切にしている方の価値観で判断すればいいのでは、と回答しました。そうすると、返信が返ってきました。そして、驚いた様子で、「自分は今までスピリチュアルが自分の抛り所だということ自体を意識しなかった。その自分に気が付けて良かった」と書いていました。

人間は、生まれながらにして煩惱、自分中心の心で生きる者である、と仏教では教えられます。何も生物がない水面は濁りませんが、活発な魚の多い水面は濁り多いように、今生は自分を抛り所とした、中心とした人たちの大所帯ともいえるでしょう。

煩惱に基づいたお念仏は、阿弥陀様が、勢至菩薩様がお勧め下さったお念仏ではありません。それは、仏教の体裁を繕った煩惱の発露に過ぎないからです。仕事、財産、愛情等々自分の思い通りにするためのツールがお念仏ではないのです。

信心に基づいたお念仏であるべきです。阿弥陀様の仰る通り、阿弥陀様を抛り所にした感謝、それが本来のお念仏です。抛り所が有ることを喜ぶとともに、真の意味でのお念仏が恵まれている背景に思いを致したいことです。